

平成新山

現在目にする島原半島は4 百万年の火山および地殻活動により出来上がった。その歴史と最も新しい山、平成新山の起源を理解することで、目に見えない地質学的な力がいかに人類の歴史を形作ったかを理解できる。

西の橘湾の地下深くには巨大なマグマだまりがあり、地面の割れ目から溶岩とガスが噴き出す。これらの物質は地下水と混ざることが多く、半島にたくさんの温泉ができた。しかし、半島地下の圧が過剰になると、突然火山が噴火する。

これはさらに雲仙「地溝」の存在で複雑さを増す。平行な断層がこの地域を分断しているためゆっくりと沈下しているほか、地震は一般に噴火の前後と最中に起こり、ここに住む人々の危険性を高めている。

それでも、島原半島の生活は歴史と文化に富んでいる。肥沃な火山性土壌は多種多様な作物に適した環境を作り出し、多くの火成岩は壁や段々畑の作成に適している。小浜、雲仙、島原の温泉は、何世紀にもわたって、健康をもたらす水で地元の人々や観光客を癒してきた。1792 年には、眉山(819 メートル)が壊滅的な打撃を受けたが、東の有明海には絶好の釣り環境ができた。

1990 年から 1995 年の平成大噴火は島原半島の物語の最新章に過ぎない。1990 年 11 月に普賢岳(1,359 メートル)が再度目覚めた時、島原の町はこれから起こる破壊への準備が万全に整ってはいなかった。5 年間に渡る地震と山崩れで 43 人が亡くなり、何百もの家屋が破壊され、何千もの人々の生活が破壊されたが、今日、地域社会は今まで以上に強くなっている。町は防災を考慮して再建され、新しい研究所が山を密に監視している。その間に、島原半島には驚くことに高さ 1,483 メートルの平成新山ができた。